

29 明治10年7月3日 菊池長閑

第六号七月三日

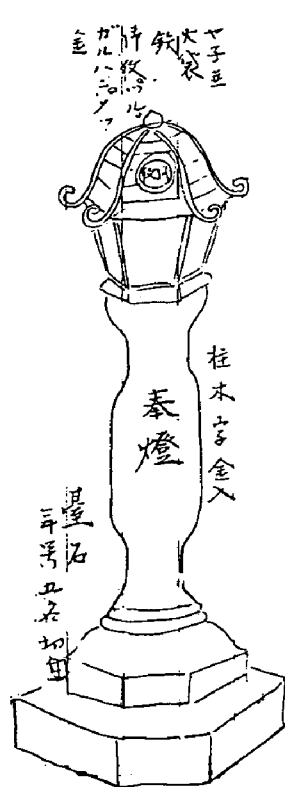
第四号六月七日達せり三月廿二日ワシントン氏誕生日ニ付他エ招かれ候節之模様様子委敷記載送られ毎度外国風珍ら敷歴見せり取扱向格外なり食後之遊び楽器を筈す或ハ謡歌を唱ふるハ随分案かるへし其外ハ兒戯らしく思はれ候其国風にしてハ案かるへく日本腹より見るときハちと馬鹿ケニ思はれる物を隠して擦しむるは当県小児の匿シカコと唱ひて戯むるゝもの也斧之故事随分面白し其正直を教示する一事ならん日本之御吉例ハ皆艱難之事計也是も其古を忘れざる為也彼之故事も同然と被考也四月十二日之断食日等ハ未開之古風なるへし西洋といへハ如斯迂遠之事業あるましくと思ひたりしか中々案外之可笑事もあるもの也古昔之慣習今猶存して民間ニ信用する事我朝のミニ無之万国同情と見得候四月一日之馬鹿日何之謂なるや諸国にもある習風なるや北野天神之ウソ売よりも遙ニ可笑古事也。氣候ハ当地ニ

比すれハ暑寒之外格別違はぬやう也却て其地ハ凌れる位なり当地ハ六月中旬ハ田植始り昼夜蛙声噪々し。西国之戦争中々鎮静之跡不見得土長豊なとも蜂起之色有之由既豊後ハ一戦ニ成たり当節四国賊渡海と申説出たり前を掩へハ後ニ願れ右ニ虞ハ左ニ起る蒼蠅を追ふか如し行末如何可相成哉本宿ハ鹿兒島ニ居るよし五月廿三日付始て達せり折々発炮して陸軍エ応援するよし従五位様六月一日急ニ東京御発途同九日御安着也御用ハ西南一件ニ付岩倉公より旧臣新撰旅団召募之義御依頼にて御下り^{表向}ハ御^基其後報恩寺円光寺エ土族卒御呼集御依頼之云々御論説也始ハ不進之処昨今ニ至逐日志願申出八百名計ニ成候由我等ハ身弱ゆへ不願近親ニハ誰も不願右一件ニ付御邸エ我等御呼出にて御趣意通轍する様尽力可致旨相蒙タリ人に依而ハ周旋ニ誤解したるもあるやニ聞ゆれ共我等蒙たる御趣意ハ勸むるニあらず御趣意不弁者等エハ弁解する事と心得且少數存寄あれば決而不勸又不押何分議論ケ間敷事ハ不言居る也然る処六月廿二日日々新聞社説より岩倉公之内達議論紛々と出同廿五日ニハ南部公之謬誤と成たる由未だ其新聞を不閱人伝なれハ間違もあるへけれども新聞ニ記載ニ相成而ハ何分心頭ニ懸縁の下之力持ながら御案事申上居候然に御下りニ成候ニハ岩倉公之茶吞咄ニ而ハ御引受被成間敷曾て証書御持参欵ニ承り候得は御誤切りニは成間敷なしろ□不致也明後五日五位様当地御発車之由。八戸之麻姫様御墓参御願立ニ而五月廿四日此元御着三日間新莊御屋敷御滞留ニ而八戸表ニ被為入候東京より車ニ而女中二人家従一人随従のミ中間も小者もなし随分御軽弁也御旧領ニ御滞在中五位様御下向

之御趣意御承知幸ニ付はや頼而御旧臣御説諭被遊候由なれとも一人も願ふものなしと聞へたり是ハサツニ縁有方故ならんかと推了セリ。一条基緒五月東京へ罷越某社社名忘ハ鉦山向之事ニ付被雇月五十円外ニ食料十五円取る約定之由六月抹消〔十五日〕八日下着同十五日鹿南エ罷越タリ八月ハ戻り直ニ東京へ行と云ふ写真一人写ハ五月廿五日達し三人之分ハ六月十日ニ一条より送來り御祖母様御始一同大慶せり去々年下りたる節より肉も肥り如何にも豆敷見ゆると御祖母様御安心御悦候英公子御容貌大ニ変せられたり御兄様ニ御似合遊したり漸々心願相叶大悦せり御二方様エも右之趣可申上候

加賀野村元妙泉寺エ御一新後御安置被遊候桜山神社昨年五位様御下り之節ハ元聖寿寺跡エ御遷宮之事御願立ニ相成漸々当春許可ニ成御普請御取付六月中旬御出来栄漸々次第にて同廿五日御遷宮廿七日夜まで二夜三昼之御祭事右之節御助上ケ致事ニ相成廿二日ハ御神殿之御飾付ニ取懸廿三日同断廿四日大殿祭廿五日ハ廿七日迄前記之通廿八日朝取仕舞其日午後二時ハ神饌御開ニ付御邸エ被為召酒肴頂戴終而御手拭ニ御扇子ニ付御紋拝領せり御遷宮御供願ふ者も有之我等ハ御宮詰之方助合ニ而布衣ニて専ら神饌エ手伝いたしタリ奉納物ハ思ひくあれとも第一等なるハ水堀れ石之鹽瀬石也是ニ山より懸樋にて水を引不絶清水流通する也其外ハ銅并石之鹽瀬大小三ツ石燈一本ツムニ基老對物ニあらす額大小五計大なるハ高五尺計横七尺計リ真鍮或ハ銅之釣燈十鍵や茂兵衛よりなれとも何れも賞するニ足るものなし我等ハ島川竹介堀江真清我太田孝国分閑吉五名申合ランブ燈二基一対ナリ年々御祭日点燈修覆とも永世致事ニ

申上奉納せり其形左之通



右を御門内御拝殿前左右エ据る外奉納之石燈ニハ点火せざる故大ニ我等か奉納燈ニ而大前明朗ナリ世評も第三とハ下タラざるよし大慶致居候廿四日大殿祭中霧廿五日御邸御線出ハ御遷座濟まで極都合能く霧右相濟否雨降廿六日同断廿七日午時ニ御仕舞之積之処朝ハ快晴ニ而五六兩日雨天ニ而見合候者歎殊ニ參詣群集いたしニ付終廿七日夜も前夜之如く点燈ニ相成夜分抔ハ大群集也。米田伯父様当三月中風ニ当り去月廿九日歿タリ七十九年四ヶ月也五位様御下り已來前件彼是ニ而終去月ハ一封出し後候河上也本月十一日国元エ下り九月出京之由其間ハ藤村か一条治士エ相頼書通可致也

七月三日

長閑

武夫殿

魯土ノ戦争何ヨリ起リタルヤ亦当今如何米国關係ナキヤ

(注記)

「鳥居ニツ何れも白木」

(封筒表)

「亞米利加国ホストン府

ポートウイン。ストリート

二十二番 (武夫注記)

菊池 武 夫 殿

要用書報平安

(封筒裏)

「〇〇岩手県陸中国盛岡

〇〇〇〇区五小区加賀野

八十六番地

菊池 長 閑

第七月三日発

(武夫注記)

「答済」